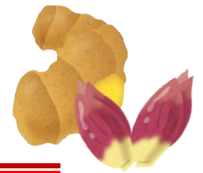




# サンビオティック農業で大豊作！

## しょうが（生姜）・みょうが 栽培基準



### ◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
2～3月	土づくり	転炉スラグ肥料、または有機石灰(苦土入り)	100～200kg	土壌混和	あらかじめ土壌分析に基づきpHを矯正します。スラグ肥料や有機石灰でpHを矯正し、最適pH 5.5～6.0に合わせます。生姜はケイ酸を好むため、スラグ肥料はお勧めです。
		パーク堆肥等	2～3トン	土壌混和	植物性主体の良質なパーク堆肥等2～3トン、なければ五穀堆肥50袋/10aを使用します。畜産堆肥であれば、牛糞堆肥や馬糞堆肥なら1～2トン、鶏糞堆肥や豚糞堆肥なら500kg程度。堆肥の上に菌力アップ5Lを適宜希釈して散布し、全体に混和します。そのまま1か月程度寝かせます。
		菌力アップ	5～10リットル	散布(灌水)	堆肥と一緒に菌力アップ5リットルをまんべんなく散布して土壌混和させます。フザリウム等の糸状菌病害多発園では、菌力アップ10リットルを施用します。
	元肥	有機百倍、又はマッスルモンスター 鈴成 水酸化マグネシウム	10袋(200kg) 10袋(200kg) 1袋(20kg)	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。苦土は、ク溶性の水酸化マグネシウムを必要に応じて施用します。ただし、pH6.5以上の土壌では、硫酸マグネシウム(2袋)を使用します。苦土は、生育促進や根茎肥大、病害予防のためにも必要ですので、施用します。
	土壌消毒	菌力アップ	10リットル	散布(灌水)	土壌消毒でゼロになった状態から、速やかに有用微生物を増やすことが最も大切です。土壌消毒後に、菌力アップ10リットルを畑に満遍なく散布できる水量(適宜)で希釈し、散布、灌水します。
5月	発芽後	菌力アップ	5リットル	灌水 7日おきに2～3回	発芽し始めたら、週1回程度のペースで菌力アップを灌水し、発根と初期生育を促進します。希釈倍率は、50～100倍希釈で大丈夫です。敷きわらを行い、土壌環境の安定と、微生物の定着を図ります。
6～7月	生長促進 土壌改良	菌力アップ	10リットル	灌水(全面散布) 培土のたび	土入れ(培土)の2～3日前に、圃場全体に菌力アップを散布し、病原菌の静菌を図り、その後追肥し、土入れ(培土)する。
	追肥	有機百倍 硫酸カリ	4～5袋(100kg) 1袋(20kg)	株元または、通路に施用して培土する	追肥を3回に分ける場合は、5月下旬、6月中旬、7月上旬で、2:2:1の割合で施用する。追肥を2回に分ける場合は、6月中旬、7月上旬で、3:2の割合で施用する。梅雨明け以降特に乾燥し、地温が高くなりやすいので、さらに敷きわらをしっかりと行い、乾燥と高温を避ける。
8～9月 根茎肥大期、収穫前	収量アップ	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	灌水(水量適宜)3～4回	さらに収量を伸ばしたい方、生育が芳しくない場合、または台風等で被害があった場合は、実施する。
	土壌病害の 予防・対応	菌力アップ 本気Ca(マジカル)	10リットル 2kg	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	根茎腐敗病、立枯病、青枯病、いもち病、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ、本気Ca(マジカル)で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。予防の場合は、各半分量で、7日おきに継続します。
	品質向上、 貯蔵性向上、病害虫の対応	本気Ca(マジカル) コーンゴールド	2000倍希釈 500倍希釈	葉面散布 3～4回	本気Ca(マジカル)には、有機酸カルシウムのほか、にがり、木酢液が配合されており、細胞壁や繊維を強化します。コーンゴールドは光合成を向上させ、耐病性を高めます。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水する。

※9月下旬～10月上旬収穫の露地栽培体系のモデルです。地域、作型によって、時期が異なりますので、生育ステージで判断してください。

※NPK＝26-28-26 の施肥設計です。地力が十分にある圃場では、元肥の有機百倍(マッスルモンスター)を半分程度まで減肥します。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。